

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	デジタル PCR を用いた原発性肺癌患者の蓄痰細胞診からの EGFR 遺伝子変異検索
	研究目的	EGFR 遺伝子変異とは、肺癌が進行するための癌のスイッチのひとつです。この EGFR 遺伝子変異の有無は、肺癌患者さんにとっては肺癌の治療法を選択する為、また予後予測の為に必要不可欠な情報です。現在この EGFR 遺伝子変異を検査する為には、肺癌患者さんから気管支鏡などの検査や胸腔鏡手術を行って癌細胞を採取しますが、これらは患者さんにとってはつらさを伴う方法となります。本研究の目的は、肺癌の EGFR 遺伝子変異を痰から検出できるかどうかを検討することです。痰を採取することは、患者さんにとってはさほどつらさを伴わないと考えられます。遺伝子変異を検出する最新の技術であるデジタル PCR 法を用いて、痰に含まれる微量な癌細胞から EGFR 遺伝子変異を検出できるかどうかを検討いたします。
	研究対象者	2014 / 9 - 2016 / 5 に神奈川県立がんセンターにて原発性肺癌疑いに対し肺切除を施行した 501 例中、痰を採取した 126 例の肺癌患者さん。
	研究期間	西 暦 2019 年 5 月 7 日 ~ 西 暦 2020 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他(痰) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	伊坂哲哉
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	呼吸器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし